

季節の変わり目、やっと涼しくなってきましたね！早いもので今月からインフルエンザワクチン開始。脳炎など重症化を防ぐ目的もあります。パパママのワクチンは予約不要。お子様の受診時に可能です。受付にお申し出ください。新しい情報はインスタに随時上げていきます、ぜひフォローください。院長池澤滋

感染症情報 8/19~9/22	前回	今回
アデノウイルス	3	3
溶連菌感染症	8	34
感染性胃腸炎	17	39
手足口病	53	91
RSウイルス	5	9
突発性発疹	2	10
おたふく風邪	1	1
ヘルパンギーナ	7	16
マイコプラズマ肺炎	0	2
新型コロナ	1	2
リンゴ病	1	0



実話

「ギャルピースにハマる」

ギャルピース、やってみるとわけもなく浮かれてきます(笑)

4コマまんが
作・絵
ちえこ&きみこ



10月
★クリニック予約
★クリニックホームページ
★いけざわ beauty (インスタ)
★クリニック Instagram
こちらから → → →

シンパナイサ

将来はわからない。だから「面白い」と思ってもいいはずなのに、何か「不安」を抱くこと、皆さんにもあるでしょうか。

「ピダハン」アマゾンの山奥に住む部族。その名も『ピダハン』という本を読んだ。基本的に親は子どもをほったらかしで、



おっばいが外れたら子どもは自分で生きていくしかないという子育て?(と言えるのか)や、でも暴力や虐待などない世界。その日必要な狩をして明日のことは明日...そんなピダハン達には引きこもりや鬱など精神疾患がないという!そこにも強烈に興味を湧いて、久々に分厚い一冊に夢中になった。

読み終え、人間は先々のことばかり考えすぎている、と私は思った。明日の出来事を推測できても、ハッキリとは予知できない。だから人は考えすぎて心配性に陥りがち...。将来はわからないのだから「面白い」とか「楽しい」と思っても良いはずなのに、心配ばかりするのには訳がある。人間は過去の嬉しかった出来事よりも、辛く苦しかった出来事の方が強く記憶に残っているからだそう。これから先も嫌なことが起こるのではないかと、憂える心が先立ってしまうのだ。「心のクセ」ともいえる心配や憂いが生活から明るさを奪い、そして将来の「マイナスの先取り」が人生をその方向に導いてしまう。心配するから尚更事態は悪化してしまうのである。自分だけでなく他人のために憂えて、カエツテその人の憂いを増すことにもなりかねない。

92歳の五木寛之が先日コラムでこのように書いていた。賢い女性ほど担当から外して欲しい。というのも、気を遣っての言葉だろうが会うなり『先生、お疲れではないですか?どうぞ無理されませぬように』真顔でこんな言葉をかけられたら、老いぼれたことを認識してしまう。

しかし能天気な中年担当は『先生、前回よりお元気そうですね!顔艶もすごく良い!』とあまり顔も見ずに声かける』と。

この担当は現実を直視せず、自然とプラスの空気を作ったのだ。本当のことを伝えるのが正しいとは限らない。もし自分が何かを導くことができるなら憂いではなく、希望の持てる世界でありたい。

私たちの子育てはどうだろう。愛するが故にいつの日も子どもの「できた」と「できない」に一喜一憂して、その度「今」が幸せになったり不幸せになったり、将来が薔薇色になったり、くすんだり。しかし我が子も一人の人間。いずれ違う世界を知り飛び立つ存在。ピダハンではないけれど、自らの行動を自ら選択し歩いていく道を後ろからただ「頑張れ頑張れ」と聞こえない声で応援するだけ。きっと子ども達は親を喜ばせたい、と思っていないはずはない。結果ではなく、今のチャレンジに大歓声を送りたいものだ!!

